

(12) 西土佐小学校

学 校 長 島田 敏和
校内研究代表者 新玉 恵子

1. 研究主題

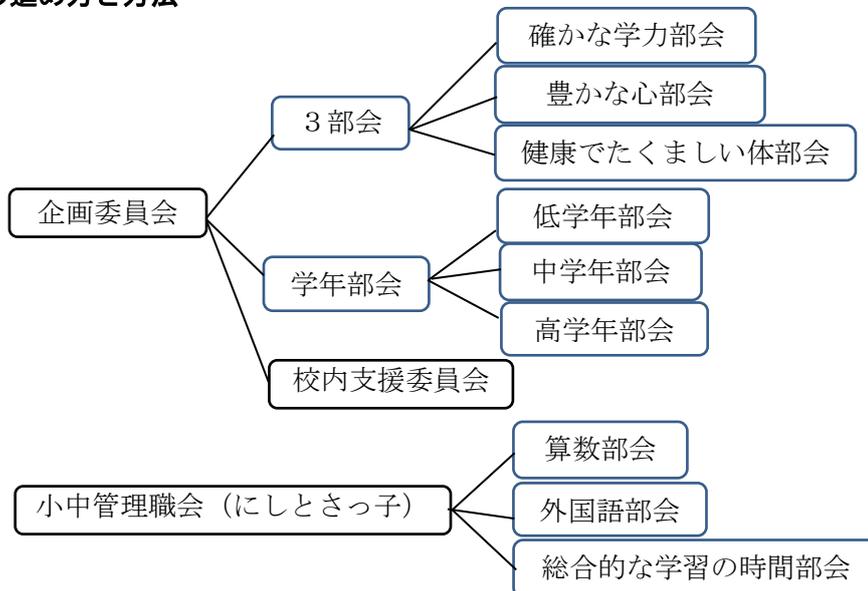
「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」
～生活や社会とのかかわりを意識した算数科の授業を通して～

2. 研究主題設定の理由

児童は素直で、友達とも穏やかに接し、互いに声をかけ合って活動する姿が見られるが、学習に対して主体的に取り組む姿勢や自分の思いを表現する力に弱さが見られる。学力面について、児童は教師側から提示された課題について真面目に取り組むことができているものの、全国学力・学習状況調査等の結果をみると、算数科に課題が見られ、算数科の授業改善を図る必要がある。

そこで、児童の興味・関心に結びつくような日常生活や社会事象とのかかわりを意識した算数科の授業を創造し、授業の中で自分の思いや考えを表現できる力を育成することを通して、児童の学力、主体性の向上を図ることを目指し、本研究主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法



- ・ 全体研究日…第2、3、4水曜日 (14:40～) 第1水曜日：職員会
- ・ 3部会…随時
- ・ 学年部会…随時
- ・ 校内支援委員会…毎月第4木曜日 (16:10～16:40)
- ・ 教科部会…随時

4. 研究内容と具体的な取り組み

①研究内容

知	徳	体
<ul style="list-style-type: none"> ○授業力向上 ○基礎学力の定着 ○家庭学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳、人権教育、特別活動の推進 ○いじめ・不登校の未然防止 ○生徒指導の充実 ○キャリア教育の推進 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり ○生活習慣の確立 ○食育の推進

②具体的な取り組み

【確かな学力部会】

- 授業力向上
 - ・ 研究授業 (算数)、小中合同公開授業 (総合・算数・外国語) 等による探究型授業、生活に生かすことのできる授業について
 - ・ ユニバーサルデザインの視点を活かした学習環境・授業づくり
- 基礎学力の定着

- ・「西土佐っ子の学び」の活用（児童・保護者）及び徹底
- ・西小タイム（帯タイム）・西小まなびタイム（放課後加力学習）の計画的実施
- 家庭学習の推進
 - ・モデルとしたい家庭学習、自主学習ノートの展示（2か月に1回以上）
 - ・家庭学習の手引きの活用推進
- 【豊かな心部会】
- 道徳、人権教育、特別活動の推進
 - ・略案を作成し、校内研で共有する
- いじめ・不登校の未然防止
 - ・Q-Uアンケートの実施から、学級全体と個の状況把握
 - ・異学年交流や西小遊びタイムの充実
- 生徒指導の充実
 - ・特別活動、児童会主体の「あいさつ運動」「ありがとうの木」「西小あそびタイム」の充実
- キャリア教育の推進
 - ・キャリアシートの効果的な活用《年間3回以上の記入》
- 読書活動の推進
 - ・必読図書の提示と朝読書（読み聞かせ）の確実な実施《目標冊数の達成90%以上》
 - ・読書環境の整備と読書への興味付けるために呼びかけを行う。《「読書が好き」90%以上》
- 【健康でたくましい体部会】
- 体力づくり
 - 〈体育授業の指導力向上〉
 - ・体育年間計画の実施時期を調整し、マット運動ととび箱運動の実施時期を揃える。
 - ・動き方などの参考にするためにICTを活用する。
 - ・中学校との連携（体育授業の参観、出前授業等）
 - 〈外遊びの推奨〉
 - ・長休みに外で遊ぶよう、担任中心に声掛けを行う。
 - ・体育委員会中心に外遊びを計画する。
 - 〈体力測定・朝運動〉
 - ・朝運動の計画的な実施による体力づくり（雲梯、鉄棒、マラソンなど）
- 生活習慣の確立
 - 〈生活習慣に関する保健指導〉
 - ・放課後等の時間を使い個別の保健指導を行う。必要に応じて保護者へ連絡・相談。
 - ・保健指導を実施
 - 〈健康に関する啓発（たよりの定期的な発行）〉
 - ・ほけんだより発行
 - 〈食育に関する啓発（たよりの定期的な発行）〉
 - ・給食だより発行
 - ・朝ごはんコンテスト・食生活調査の実施

5. 成果・課題、来年度に向けて

①成果

保・小・中・高・地域との連携

○幼児・児童・生徒の情報交換

○教職員間の連携強化

- ・中学校教員による小学校での音楽・外国語の学習指導による中1ギャップの解消・軽減
- ・保小の教職員交流による小1プロブレムへの対応

○生活面における連携した取組

- ・就寝時刻の改善

○地域との連携の広がり

（地域を誇りに思い愛することのできる児童の育成）

授業改善

○算数科・・・授業で目指す児童の姿を意識した、「見方・考え方」を踏まえた授業改善

②課題及び改善策

●保・小・中・高・地域の連携を更に強化すること

- ・15歳の出口を見据えた「保・小・中連携カリキュラム」の作成・実践
- ・取り組みの検証軸となるデータ収集
- ・中1ギャップ解消のための中学校教員による出前授業
- ・総合的な学習の時間、他の教科での地域人材の更なる発掘

●授業改善

- ・算数科…根拠をもとに「自分の思いや考えを発表できる」授業づくり